ふるさと講座

ジオパーク 成り立ち編 ⑤

隠岐の固有種 PartⅡ

（左から）イズモマイマイ、サンインコベソマイマイ、ヘソアキコベソマイマイ、オキマイマイ、ユウグレナミギセル

あけましておめでとうございます。今年も、隠岐のジオパークを紹介していきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

前号では、固有種とはどのような生物なのかを説明させていただきました。今回は、実際、隠岐でみられる固有種にはどのようなものがいるのかを紹介していきます。

隠岐の固有種（固有亜種を含む）として現在確認されているのは約30種強です。様々な種類がいますが、それぞれの種類ごとに固有種となった理由が考えられます。隠岐は哺乳類の種類が少ない島ですが、そんな中、野ネズミの仲間が数種類確認されており、ほとんどが固有種化しているようです。その理由として、短命で1～2年で寿命を迎えるものが多く、世代交代が早いため、生息環境に合わせてどんどん進化していくのです。隠岐での生息が確認されているものとして、森林などに住む「オキアカネズミ」「オキヒメネズミ」「オキスミスネズミ」や「オキヒミズモグラ」などがいます。ちなみに、人家などでよく屋根裏を駆け回っているネズミは、在来のネズミではありません。体の小さいものはハツカネズミ、大きなものはドブネズミやクマネズミで、いずれも外国産のネズミです。

森林の林床を見てみると、ここも固有種の宝庫となっています。落ち葉の下などでみられる陸貝の仲間のことです。陸貝と聞くと「陸に貝がいるの?」と驚かれることがありますが、皆さんよくご存じのカタツムリの仲間がその代表です。カタツムリという名前の貝がいるわけではなく、陸上にいる巻貝の総称なのです。隠岐にはとてもたくさんの種類がおり、それぞれに名前がついています。例えば、海士町で普通に見られる種類として、家の周りなどで身近にお目にかかる殻径5cm 強ほどの大きなカタツムリは「イズモマイマイ」といいます。同じような形でも4cm 弱のものは「サンインコベソマイマイ」、もう少し小さい3cm 弱程度の「ヘソアキコベソマイマイ」もいます。さらに、良好な広葉樹林には、もっと小さい2cm 前後の殻径の「オキマイマイ」が見られます。これらのうち、前者2種は山陰地方の固有種であり、後者2種は隠岐だけに生息する隠岐の固有種となります。他にも、カタツムリとは形状の異なる長細い殻の形をしたキセルガイの仲間も数種類います。「ユウグレナミギセル」はその代表で、海士町と西ノ島町にしか生息しない固有種です。

全てをここで紹介していくときりがないので、種名をあげるのはこれくらいにとどめますが、海士町には、まだまだたくさんの種類の陸貝が生息しています。いずれも移動できる範囲がかなり限定的で、その生息地周辺にいるものだけで世代交代しているため、ほかの地域のものとは形状が異なっていくと考えられます。昆虫類でも同じような理由で固有種になりやすい種類がいます。「マイマイカブリ隠岐亜種」や「ダイセンオサムシ隠岐亜種」に代表される、空を飛べず地上を歩き回るタイプです。飛べない昆虫も、陸貝と同じ理由で固有種化しやすいと考えられます。紙面の都合上、続きは次号でお話します。

〔海士町文化財保護審議委員
深谷 治〕